

Y 3026

90分

[注意事項]

- *受験番号は受験票で確認し、算用数字で正確に記入してください。
- *解答するときは、別紙のマークシート解答用紙に、正解と思う(1)~(4)の数字を一つだけぬりつぶしてください。
- *解答用紙は回収します。
- *問題用紙は持ち帰ってもかまいません。

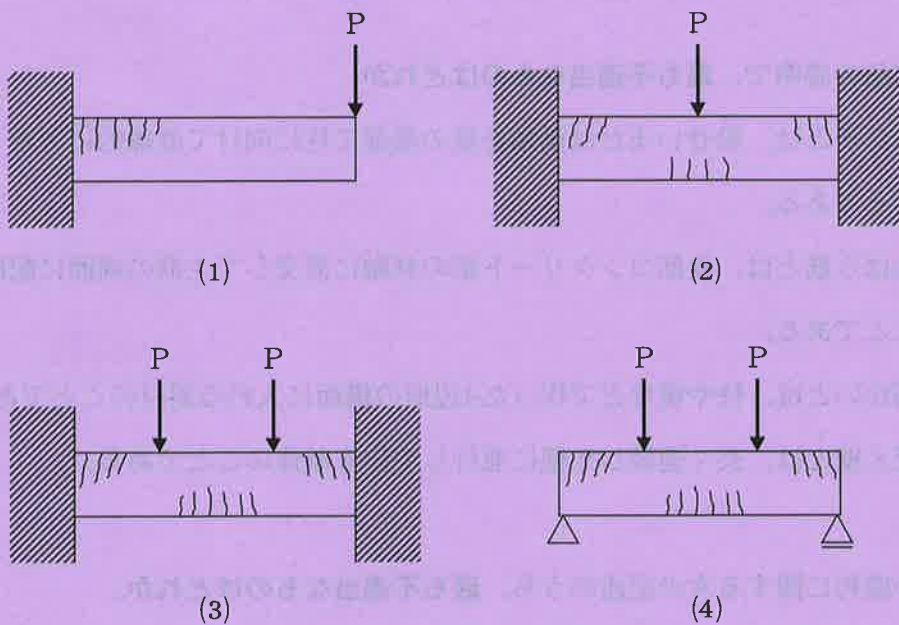
受 験 番 号					
		—			

氏 名	(フリガナ)
	(漢字)

問題 1 鉄骨造と鉄筋コンクリート造に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 鉄骨造は、耐震性に優れ、超高層の建築物を造ることができる。
- (2) 鉄骨造は、一般に火災等により高温になると耐力が低下するため、耐火被覆が必要である。
- (3) 鉄筋コンクリート造は、圧縮に強く引張に弱い鉄筋の性質を、引張に強い性質のコンクリートが補うことで、構成されている。
- (4) 鉄筋コンクリート造は、コンクリートが耐熱・耐火性に優れているため、耐火建築物を造ることができる。

問題 2 図のような荷重を受ける鉄筋コンクリート造の梁に発生するひび割れとして、不適当なものはどれか。



問題 3 建築材料に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) スレートボードは、細かく切削した木材の小片に合成樹脂接着剤を加えて、高温高圧で成形したもので、耐火性に優れ、内装材として用いられる。
- (2) 繊維強化プラスチック（FRP）は、ガラス繊維で補強されたプラスチック複合材料で、軽量、高強度で耐熱性・耐候性に優れ、浴槽、浄化槽、バルコニーの防水材として用いられる。
- (3) 合わせガラスは、2枚のガラスの間に特殊樹脂フィルムを加熱圧着して張り合わせたガラスで、地震や衝撃で破損しても破片が飛散せず、安全性能が高いため防犯や防災を目的に用いられる。
- (4) 単層積層材（LVL）とは、木材を薄くむいた単板（ベニヤ）を、繊維方向に平行して積層接着したもので、建具、構造材などに用いられる。

問題 4 次の用語の説明で、最も不適当なものはどれか。

- (1) ハンチとは、梁せいまたは梁幅を梁の端部で柱に向けて直線的に大きくした部分のことである。
- (2) あばら筋とは、鉄筋コンクリート梁の材軸に直交して主筋の周囲に配置する鉄筋のことである。
- (3) 筋かいとは、柱や梁などで作った4辺形の構面に入れる斜材のことである。
- (4) 控え壁とは、長く連続した壁に並行して作る壁体のことである。

問題 5 木材の腐朽に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 木材の腐朽には、木材腐朽菌が関与している。
- (2) 周囲の温度が極端に低かったり高かったりすると、腐朽は停滞する。
- (3) 常時、地下水位以下にある木材は、腐朽しやすい。
- (4) 木材の腐朽は樹種によって異なり、ヒノキは耐朽性が高い。

問題 6 解体工事用機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) フォークグラブは、木材をつかむためのアタッチメントで、主に木造建築物の解体作業に使用する。
- (2) ワイヤソーのピーズは、研削熱に強く消耗時間も長いので、鉄筋コンクリート部材の切断に適している。
- (3) 大割用圧砕具は、鉄筋コンクリート造建築物の壁、柱、梁、床などを破砕する場合に使用する。
- (4) ガス溶断器は、アセチレンガスと酸素を混合燃焼させて鉄筋や鉄骨を溶断する装置である。

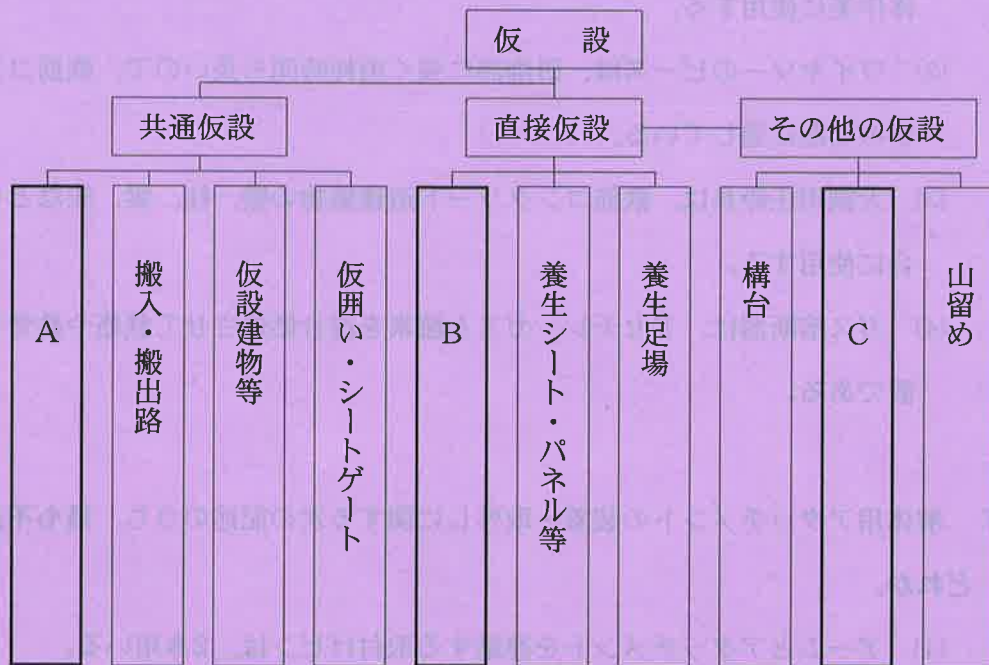
問題 7 解体用アタッチメントの装着・取外しに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) アームとアタッチメントを連結する取付けピンは、2本用いる。
- (2) 取り外した油圧ホースとストップバルブには、それぞれにダストキャップを付ける。
- (3) アタッチメントは、ベースマシン本体質量の約20%くらいまでの重さのものを使用する。
- (4) 移動式クレーンによりアタッチメントを装着する場合には、作業指揮者を配置する。

問題 8 圧砕機による解体工法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 地上解体工法において外壁を残す場合に、3層分の外壁を控え壁無しに自立させた。
- (2) 地上4階建ての建築物に、地上解体工法を採用した。
- (3) 敷地に余裕がないので、階上解体工法を採用した。
- (4) 階上解体工法において、中央部の天井スラブ・梁・壁などを解体してから外周壁を解体した。

問題 9 下図に示す解体工事における仮設の種類について、A～Cに該当する用語の組み合わせとして、**適当なもの**はどれか。



	A	B	C
(1)	仮設設備(電気・水道等)	架空線養生	排水
(2)	仮設設備(電気・水道等)	排水	架空線養生
(3)	架空線養生	仮設設備(電気・水道等)	排水
(4)	排水	仮設設備(電気・水道等)	架空線養生

問題 10 養生設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- (1) 防音パネルに隙間があると防音効果が低下する為、粘着テープなどで隙間をなくす対策が必要である。
- (2) 「しのびがえし」とは上部から落下するガラ等を途中で受け、建物内部に落とし込む防護柵である。
- (3) 安全ネットは墜落により作業員に危害を及ぼす箇所に水平に張るもので、網目の一辺の長さは10cm以下にする。
- (4) 親綱を支柱に張る場合は緩みを持たせるように張り、支柱を取り付けてある作業床より0.9m以上となる高さの位置とする。

問題 11 解体工事における事前調査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 建設機器から発生する振動は、反射・伝播あるいは地質・地層の特異性などの影響を受けるため、隣接建物だけでなく、数十メートル離れた構造物についても工事開始前の状況を調査し記録した。
- (2) 近隣住民とのトラブルを防止するため、住宅地域・商業地域・工業地域等の行政的区分だけでなく、一軒一軒ごとに住民の実態を調査した。
- (3) 円滑に工事を進めるため、廃棄物処理施設までの往路・復路の時間帯ごとの渋滞度、交通規制、道路工事の有無などについて、実際に車を走らせて調査した。
- (4) ガス漏れや漏水事故を防止するため、敷地内のガス、上下水道、電話等の配管・配線について、新築時の設計図書により確認した。

問題 12 解体工事における事前調査に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 建築物等の使用期間、用途、老朽度および被災歴等について調査を行う。
- (2) トランス（変圧器）やコンデンサ（蓄電器）などPCB含有の可能性のある廃棄物は、銘板を調査すれば分析調査は不要である。
- (3) 部材・内外装の種類によっては、作業方法・作業手順・廃棄物の処理方法等が異なるので注意が必要である。
- (4) 付着物・有害物については、特に石綿含有建材についての調査が重要である。

問題 13 現場管理費に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 人件費とは、現場の専任職員の作業員の給与等である。
- (2) 法定福利費とは、健康診断に必要な費用等である。
- (3) 労務安全管理費とは、作業用具、作業服等の安全衛生管理に必要な費用である。
- (4) 保険料とは、損害保険・賠償保険等の保険料である。

問題 14 解体工事の見積に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 建築物の解体工事の見積を依頼されたが、契約段階で廃棄物の発生量が判らないので、「再資源化の費用」を見積らなかつた。
- (2) 解体工事の請負に際し、受注者は、注文者から請求があつたので、請負契約が成立した直後に見積書を手渡した。
- (3) 古い家屋の解体工事に関して、表紙、内訳書及び明細書の3つの書類で構成される見積書を作成した。
- (4) 河川に架かる橋梁の解体工事で、現場から発生するコンクリート塊の処理費用を現場管理費として見積つた。

問題 15 解体工事の請負契約に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 大規模な解体工事に際し、発注者は、工事に使用する特定の建設機械を受注者に指定できる。
- (2) 解体工事の請負に際し、受注者は、発注者の同意を得て、セキュリティ対策を施した電子契約を行うことができる。
- (3) 建築物の解体工事を受注する場合、この解体工事契約は契約金額にかかわらず建設業法の適用を受けない。
- (4) 解体工事業者は、現場状況が流動的で工事着手時期の見通しが立たない場合、「工事着手の時期」を明記しない解体工事請負契約を結ぶことができる。

問題 16 解体工事における許可申請・届出に関する次の記述のうち、不適当なものはどれか。

- (1) 解体用の足場を60日以上設置する必要があるため、機械等設置届を所轄の労働基準監督署へ提出した。
- (2) 道路上でレッカー作業をする必要があるため、道路使用許可申請書を所轄の警察署へ提出した。
- (3) 道路際で地下躯体の解体を行うため、沿道掘削申請書を所轄の警察署へ提出した。
- (4) 高さが35mある建築物を解体するため、建設工事計画届を所轄の労働基準監督署へ提出した。

問題 17 建設リサイクル法による解体工事において、着工までの流れとして最も適当なものはどれか。

A：契約 B：発注者による分別解体等の計画作成 C：事前調査の実施

D：発注者への書面による説明 E：都道府県知事への届出

(1) A ⇒ B ⇒ C ⇒ D ⇒ E

(2) D ⇒ A ⇒ B ⇒ C ⇒ E

(3) C ⇒ A ⇒ B ⇒ D ⇒ E

(4) C ⇒ D ⇒ B ⇒ A ⇒ E

問題 18 解体工事の施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

(1) 発注者は、工事着手の7日前までに、分別解体等の計画等について、都道府県知事又は建設リサイクル法施行令で定められた市区町村長に届け出る。

(2) 施工計画の良否によって企業の収益にも大きな影響を与えるので、施工計画は現場責任者のみならず企業の総力を結集して行うべきである。

(3) バーチャート式工程表は、表の作成が簡単で、作業の日数・日程がわかりやすいが、各作業の関連性（順序）が把握しにくい。

(4) 廃棄物の焼却施設に設置された廃棄物焼却炉の設備を解体する場合は、7日前までに計画を都道府県知事に提出する。

問題 19 解体工事における施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

(1) 施工管理は、作業管理、工程管理、原価管理、安全衛生管理の4管理の観点から行う。

(2) 工程管理は、単なる時間的な管理ではなく、最小限の労働力・資材・機械で最大限の効果が得られるよう努めなければならない。

(3) 作業管理には、労働力の確保・管理、建設機械や資材の管理などがある。

(4) 安全衛生管理は、店社及び現場の安全衛生計画に基づいて管理する。

問題 20 解体工事の施工管理に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 現場にかかる経費と実行予算とに差異が生じた場合には、原因分析と改善対策を行う。
- (2) 施工管理者は、作業工程の管理だけでなく、現場環境の整備、教育・指導の徹底、労働意欲高揚のための施策などを適切に行い、労働者の定着・確保を図る。
- (3) 建設機械の管理においては、原価縮減を最優先し、機械の機種・台数をできる限り少なく配置する。
- (4) 足場等の資材は使用前に、損傷の有無を検査し、使用中も常に点検し不適格なものも迅速に交換するなどの管理を行う。

問題 21 安全ミーティング（ツールボックス・ミーティング）に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 安全ミーティングは、元請企業の技術者が中心となって作業者と相談しながら行う活動である。
- (2) 安全ミーティングは、作業開始前の時間を使って行うものである。
- (3) 安全ミーティングは、その日の工程を念頭に置き、安全に作業を進める方法を工夫し、それを作業者に理解させるものである。
- (4) 安全ミーティングで話題として取り上げる項目には、作業者の健康状態、服装、保護具等も含まれる。

問題 22 安全衛生管理に関する次の記述のうち、**不適当なもの**はどれか。

- (1) 高さ6mの鉄骨造の建築物の解体工事においては、「建築物等の鉄骨の組立て等作業主任者」を選任しなければならない。
- (2) アスベスト含有建材の除去作業を行う際には、「石綿作業主任者」を選任しなければならない。
- (3) 高さ3mのコンクリート造の工作物を解体する際には、「コンクリート造の工作物の解体等作業主任者」を選任しなければならない。
- (4) 高さ6mの足場を解体する際には、「足場の組立て等作業主任者」を選任しなければならない。

問題 23 工事現場の安全衛生管理に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- (1) 安全衛生管理計画は、安全第一を根幹にすえて策定した。
- (2) 脚立足場の脚の水平との角度を、80度にして作業を進めた。
- (3) 枠組足場からの墜落防止策として、交さ筋かいと高さ20cmの幅木を設置した。
- (4) 高さ3mの位置から物体を投下する際に、投下設備を設け、監視人を置いた。

問題 24 解体工事における環境保全対策に関する次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

- (1) 騒音計には普通騒音計と精密騒音計があるが、建設工事現場では、一般的に普通騒音計が使用される。
- (2) 建設機械の騒音を測定する場合は、機械から7、15、30mの距離で測定する。
- (3) 特定建設作業の振動の規制値は85デシベルである。
- (4) 低騒音型建設機械は、通常の作業において当該機械から10m離れた地点の騒音が80デシベルを超えないとみなされるものである。

問題 25 環境保全に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 石綿粉じんは、中皮腫などの重篤な疾病を引き起こす。
- (2) 降下粉じんは、浮遊粉じんに比べてじん肺や重金属による肺炎などを発症させる可能性が高い。
- (3) 粉じんの飛散抑制には、粉じん発生個所への散水が効果的である。
- (4) 粒径が $10\mu\text{m}$ （マイクロメートル）より大きい粉じんは、吸引してもほとんどが鼻腔部に付着して容易に体外に排出できる。

問題 26 木造建築物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 手作業による解体では、柱を残し、貫・筋かいをすべて撤去した後に外装材を撤去する。
- (2) 接合金物の取外しは、上部から順次下部に向かって行う。
- (3) ガラス付きの建具類は下階から撤去し、ガラスは搬出用車両の荷台や専用容器の中で割る。
- (4) 平屋住宅を総2階建に増築した建物は、2階部分をすべて撤去した後に1階部分を解体する。

問題 27 木造建築物の解体に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 木造建築物の屋根葺材としては、瓦類、屋根用化粧スレート類、金属類等がある。
- (2) 部材の接合金物は建築年代によって仕様が異なり、年代が新しいものほど種類や使用量が少なくなる。
- (3) 土台、大引き等にCCA処理木材が使用されている場合は、当該建材のみを分別し、焼却施設または管理型最終処分場へ運搬する。
- (4) 発生部位によって木材の品質は異なり、柱や梁などの大断面部材は有価で取引されることもある。

問題 28 木造建物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 解体作業にともなう振動等により倒壊の危険性があったので、事前に補強を行った。
- (2) 老朽化の進行が著しく、踏み抜きのおそれのある屋根を、機械作業で解体した。
- (3) 床柱（とこばしら）等の銘木は、再利用の目的で内装材の撤去の前に取り外すことが多い。
- (4) 解体工事により発生する木材は、柱や梁などの断面の大きな材だけを分別し、根太、野地板などは分別しなかった。

問題 29 鉄骨造建築物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 外壁ALC版を鉄骨躯体と一体的に転倒させた。
- (2) ボルトを外して部材を解体する場合に、解体箇所ボルトのみを緩め、他のボルトは本締めのままにした。
- (3) ガス溶断器を用いて、妻側から1スパンごとに母屋材、胴縁、小屋組を溶断した。
- (4) 屋根葺き材の取り外しに際し、フックボルトはカッターで切断した。

問題 30 鉄骨造建築物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 外壁躯体の解体時は、不意の転倒を防ぐ為、転倒方向の側から順に柱の溶断を行う。
- (2) ウレタン吹付等の可燃物は、火災防止の観点からも躯体解体前に内装材等と共に除去する。
- (3) 鉄骨梁を溶断する場合は、原則として上から下の順序で行い、継手部分は避ける。
- (4) 外壁は1枚壁にならないようL字またはコの字型に残して倒壊を防止する。

問題 31 鉄筋コンクリート造の解体に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) ベランダのある外壁を引き倒す場合は、転倒させる外壁の重心が常に転倒側になるよう計画し、作業を行う。
- (2) 外壁の転倒作業は、1フロアごとに、1～3スパン程度（柱2～3本を含む）ごとに行う。
- (3) 転倒作業では、転倒部材の飛散防止の観点から、一体性を確保しつつ急速に転倒させる。
- (4) 転倒作業において、圧碎機が1台しか使用できない場合、圧碎機で外壁を支え、ハンドブレイカーおよびガス溶断器を用いて縁切りする。

問題 32 鉄筋コンクリート造の解体作業に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 階上解体に際して、床のサポートの本数は経験に基づき決定する。
- (2) 転倒工法における引きワイヤーの切断荷重に対する安全係数は、3以上のものを使用する。
- (3) 圧碎作業に際し、外部養生足場と外壁との距離は300～500mmを確保する。
- (4) ハンドブレイカーによる解体作業は、上階の床スラブ ⇒ 梁 ⇒ 内柱 ⇒ 内壁 ⇒ 外柱 ⇒ 外壁の順序で作業する。

問題 33 鉄筋コンクリート造建築物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 解体作業を行う場合の散水作業は、粉じん防止効果を高めるために、重機オペレーターと連絡を密にして、重機の稼働範囲内で行う。
- (2) 重機を、積み上げたコンクリート塊の上に乗せる場合は、積み上げたコンクリート塊の勾配や締まり具合に十分注意する。
- (3) 階上解体では、解体で発生するコンクリート塊は、スラブに穴などをあけ、取り除きながら作業する。
- (4) ロングブームは低所の解体に不向きなので、低所では標準ブームを併用する。

問題 34 鉄筋コンクリート造の煙突とPCパイル基礎杭の解体に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 煙突の解体工法には、敷地内の安全が十分確保できる場合、地上からロングブームに圧砕用アタッチメントを装着して解体する工法のほか、転倒させてから小割にする工法がある。
- (2) 煙突の解体において、敷地に余裕がない場合は、一般に事前に足場を設置して上部からハンドブレーカで解体し、発生した解体ガラは煙突の外側に落下させて作業を進める。
- (3) 基礎杭をスパイラルケーシング工法で引き抜く工法は、低騒音・低振動の工法のひとつである。
- (4) 引き抜いた基礎杭は、現場内でコンクリート圧砕機、大型ブレーカ等を用いて小割にする。

問題 35 地下構造物の解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 直接土に接している部分の解体作業では、地上部分を解体する場合より、振動の発生に注意して行った。
- (2) 構造物の解体作業を、地山の掘削作業と土留支保工の組立作業より、先に行った。
- (3) 一階の床スラブを局部的に解体して穴を開け、その穴に切梁支持杭を打ち込んだ。
- (4) 基礎杭を引き抜いた後の孔は、改良土で埋め戻した。

問題 36 解体作業に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 断熱材として使用されているグラスウールは、空隙率が大きいので細かく裁断して容積を小さくする。
- (2) 石こうボードの下地にクロス仕上げされている壁は、石こうボードを撤去する前にクロスをはがす。
- (3) 鉛等の重金属が使用されている場合は、注意して撤去し、適正に処理できる業者に引き渡す。
- (4) 浄化槽を撤去するときは、事前に内部の残留物の除去及び清掃を行う。

問題 37 解体作業に関する次の記述の正誤の組合せで、最も適当なものはどれか。

- (A) 建設設備は、解体工法に関わらず手作業で撤去し、木質系、金属系およびプラスチック系の材料などに分別して搬出する。
- (B) 廃棄物の運搬車両には品目別で単品ごとに積載するが、やむを得ず1台に複数品目を混載する場合は品目別に仕切る。
- (C) ガラス付きの建具は手作業で撤去する。
- (D) 解体工事現場が狭い場合は、工事現場での分別作業は行わず、自社のストックヤードに運搬して分別作業を行ってよい。

	(A)	(B)	(C)	(D)
(1)	○	×	×	×
(2)	○	○	○	×
(3)	×	○	○	×
(4)	×	×	○	○

問題 38 委託を受けて産業廃棄物の収集・運搬を行う場合に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 産業廃棄物の保管は原則禁止であるが、積替え保管の許可を有していれば、基準にしたがい保管することができる。
- (2) 産業廃棄物の収集運搬車両である旨、氏名または名称および許可番号（下6けたに限る）を、車体の両側面に鮮明に表示しなければならない。
- (3) 運搬車両は、当該産業廃棄物の産業廃棄物管理票（マニフェスト）および委託契約書の写しを備え付けておかなければならない。
- (4) 産業廃棄物が飛散・流出したり、悪臭が漏れたりするおそれのないようにしなければならない。

問題 39 建物内の家具類や電気器具類等の残置物を処理するに際し、解体業者の行動に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

- (1) 残置物を整理のうえ、一般廃棄物処理業者に処理を委託した。
- (2) 残置物を整理のうえ、産業廃棄物処理業者に処理を委託した。
- (3) 残置物を解体し、木くずや金属類など数種類の廃棄物に分別して、産業廃棄物処理業者に処理を委託した。
- (4) 残置物のリストをつくり、建物の所有者に一般廃棄物として処理するように依頼した。

問題 40 建設産業廃棄物の再資源化等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 熱回収を前提とした廃木材チップ化は、再資源化に含まれる。
- (2) 元請業者は、家庭の屋根に設置された太陽光発電設備の太陽電池モジュールを取り外し、産業廃棄物として中間処理業者にその処理を委託できる。
- (3) 元請業者は、当該工事の特定建設資材廃棄物の再資源化が完了した報告を、書面で都道府県知事に行わなければならない。
- (4) 元請業者は、分別解体に伴って生じた特定建設資材廃棄物について、再資源化等を行わなければならない。

問題 41 石綿処理の実務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 石綿等が使用されている建築物の解体作業を行うとき、事業者は作業従事する労働者が見やすい箇所に、注意事項等を掲示しなければならない。
- (2) 吹付け石綿の除去作業の作業場所の内部は、常に負圧の状態に保ち、除じんフィルターを適宜交換しなければならない。
- (3) 石綿含有産業廃棄物の収集運搬に際しては、その他の廃棄物と混合しないように区分し、破碎・飛散することがないようにしなければならない。
- (4) 石綿等が使用されている建築物の解体作業を行った事業者は、作業環境測定の結果およびその評価の記録を5年間保存しなければならない。

問題 42 建設業法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

- (1) 平成33年（2021年）3月31日までは、従来のとび・土工工事業許可でも解体工事の営業ができる。
- (2) 解体工事業者が2つの県に営業所を設けて営業する場合、国土交通大臣の許可を受ける。
- (3) 発注者から直接建設工事を請け負った特定建設業者が、そのうち4,000万円以上（建築一式工事は6,000万円）を下請施工させる場合は、監理技術者を置かなければならない。
- (4) 解体工事業者の経営管理者には、経験豊かな業務を執行する社員が在職すれば、大学を卒業したばかりの人材でも就任できる。

問題 43 解体工事における作業主任者に関する次の記述のうち、労働安全衛生法令に照らして不適切なものはどれか。

- (1) 事業者は、作業主任者として、都道府県労働局長の免許を受けた者または登録教習機関の実施する技能講習を修了した者から選任しなければならない。
- (2) 事業者は、選任した作業主任者の氏名およびその者に行わせる事項を作業所の見やすい箇所に掲示する等により、労働者に周知させなければならない。
- (3) 作業主任者は、技能講習修了証を常時、事務所または自宅に保管しておかなければならない。
- (4) 作業主任者は、安全衛生責任者や職長の職務にある者が兼任することができる。

問題 44 解体工事に用いる機械に関する次の記述のうち、労働安全衛生規則上の正誤の組合せで、正しいものはどれか。

- (A) 車両系建設機械を用いて作業を行うときは、接触するおそれのある箇所に労働者を立ち入らせないか、誘導者を配置しなければならない。
- (B) 作業床の高さが2m以上の高所作業車は、特定自主検査が必要である。
- (C) 特定自主検査を実施したブレーカは、見やすい箇所に、検査を行った年月を明らかにした検査標章（ステッカー）を貼り付けなければならない。
- (D) 車両系建設機械の修理作業は、作業指揮者の直接指揮のもとに行わなければならない。

	(A)	(B)	(C)	(D)
(1)	○	○	×	×
(2)	○	×	○	×
(3)	×	○	×	○
(4)	○	○	○	○

問題 45 次の産業廃棄物のうち、特別管理産業廃棄物として処理をしなければならないものはどれか。

- (1) 廃発泡スチロール
- (2) 防水アスファルト
- (3) ベントナイト汚泥
- (4) けいそう土保温材

問題 46 大量の蛍光灯の撤去を元請業者が行う場合、その処理に関する次の文の空欄

、 に当てはまる記述の組合せとして、**適当なものはどれか。**

蛍光灯を保管容器に 詰めて蓋をし、マニフェストに産業廃棄物の「ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、並びに金属くず」、かつ「廃蛍光灯 」と記載して、許可を受けた収集運搬業者に収集運搬を委託し、水銀回収業者（許可施設）において処理した。

<input type="text" value="ア"/>	A1：細かく破碎して A2：割れないように
<input type="text" value="イ"/>	B1：(廃水銀等) B2：(水銀使用製品産業廃棄物)

	<input type="text" value="ア"/>	<input type="text" value="イ"/>
(1)	A1	B1
(2)	A1	B2
(3)	A2	B1
(4)	A2	B2

問題 47 建設リサイクル法に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

- (1) 工事の発注者または自主施工者は、工事着手日の7日前までに分別解体計画等を定められた様式により、都道府県知事に届け出なければならない。
- (2) 元請業者は、対象建設工事を請負うにあたり、発注者に対して分別解体等の必要事項を口頭にて詳細説明し、了承を得ることが義務付けられている。
- (3) 建設リサイクル法の3本柱は、「建設工事における分別解体等と再資源化等の義務付け」・「届出・契約等の手続きの整備」・「解体工事業者の登録制度の創設」である。
- (4) 縮減とは、建設廃棄物について焼却、脱水、圧縮その他の方法により、建設資材廃棄物の大きさを減ずる行為である。

問題 48 建設リサイクル法対象工事に関する次の記述のうち、最も不適当ものはどれか。

- (1) 分別解体及び廃棄物の再資源化に要する費用については、排出事業者の負担とした。
- (2) 内装に使用されていた石こうボードは、特定建設資材であるので、分別解体した。
- (3) 廃木材は、当該解体工事現場から50km以内に再資源化処理施設がなかったの
で、焼却施設で縮減した。
- (4) 解体工事の元請業者が、廃棄物の再資源化の実施状況に関する記録を作成し、保
管した。

問題 49 建設リサイクル法対象工事の規模基準に関する下表のうち、A～Dに該当する値の組み
み合わせで、正しいものはどれか。

工事の種類	規模の基準
建築物の解体	延べ床面積 <input type="text" value="A"/> 以上
建築物の新築・増築	延べ床面積 <input type="text" value="B"/> 以上
建築物の修繕・模様替等（リフォーム等）	工事金額 <input type="text" value="C"/> 以上
その他の工作物に関する工事（土木工事等）	工事金額 <input type="text" value="D"/> 以上

	<input type="text" value="A"/>	<input type="text" value="B"/>	<input type="text" value="C"/>	<input type="text" value="D"/>
(1)	100m ²	500m ²	5,000万円	1,000万円
(2)	80m ²	1,000m ²	5,000万円	500万円
(3)	80m ²	500m ²	1億円	500万円
(4)	100m ²	1,000m ²	1億円	1,000万円

問題 50 次の石綿含有建材のうち、大気汚染防止法における特定建築材料に該当しないものはどれか。

- (1) 石綿含有ロックウール天井板
- (2) 石綿含有パーライト保温材
- (3) 石綿含有吹付けロックウール
- (4) 石綿含有けい酸カルシウム板第二種

新築の建屋		修繕の建屋
±以上	A 耐震用合板	土壁の耐震壁
±以上	B 耐震用合板	裏側・裏面の耐震壁
±以上	C 耐震用工	(要ムースク) 耐震用壁・耐震用の耐震壁
±以上	D 耐震用工	(要ムースク) 建ておす間仕舞壁等の耐震用

D	C	B	A	
FR0001	FR0003	m002	m001	(1)
FR0002	FR0002	m0001	m02	(2)
FR0002	FR001	m003	m03	(3)
FR0001	FR001	m0001	m001	(4)